

# セイヨウノコギリソウ

*Achillea millefolium*

キク科



セイヨウノコギリソウ

## 名前の由来

「ノコギリソウ(鋸草)」とは葉が細く密に切れ込んでいる様子を鋸(のこぎり)にたとえた。「西洋」は外国から入ってきたという意味。漢字名：西洋鋸草

## 形態的特徴

高さ30~80cmで、全体に縮れた軟毛がある。茎は硬く直立する。葉は長楕円形で(2~3回の羽状複葉)櫛歯状に細かく切れ込み、葉の両面に軟毛がある。茎頂に白色、時にピンク色がかった頭花が多数、密に集まり散房状になる。花の中央には筒状花が多数集まり、周りに円形で、先に浅く円い切れ込みのある舌状花が5枚ほどつき、頭花を形成する。

## 類似種と見分け方

ノコギリソウ。(在来種)

ノコギリソウの葉は厚みがあり鋸歯状で、セイヨウノコギリソウのように葉が細く密に切れ込むことはない。



セイヨウノコギリソウの葉



セイヨウノコギリソウの花



類似種、ノコギリソウの葉



類似種、ノコギリソウの花



類似種のノコギリソウ(在来種)

## 生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期			■									
結実期			■									

魚類

底生動物

両生虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(葦原・樹林) 鳥類  
ワシ・タカ

## 生育環境・分布

草地、芝生、道端など。日当たりのよいところ。

**分布：**国外分布は、ヨーロッパ（原産地）に分布。

国内分布は、全国。北日本や標高の高い所に多い。

北海道内分布は、全道。

十勝地方では、低山～海岸沿い。道端や空き地、河川敷でよく見られる。小さなお花畑となっているときもしばしばある。



セイヨウノコギリソウ。日当たりの良いところに生育する

## 生活史

開花時期：6～8月

開花までの年数：不明

寿命：多年草。

## 他生物との関わり

花には虫が訪れる。

## 興味深い話

■ヨーロッパ原産の帰化植物。明治時代（1868～1911年）に園芸植物として日本に輸入され、その後野生化した。北海道では明治の頃から牧草地の雑草として知られていた。

■香りと苦味があり、ハーブティーとしても使われる。ハーブ名は「ヤロー」。

■学名Achillea（アキレア）の由来は、ギリシャの英雄アキレスがトロイア戦争で傷ついたときに、この草を利用して傷を治したところから。実際セイヨウノコギリソウには殺菌止血作用があり、現在でも薬草として使われている。



セイヨウノコギリソウ



セイヨウノコギリソウ

魚類

底生動物

両生虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(鳥水辺) 類

(倉原樹林) 鳥類

### 参考文献

「日本の野生植物-草本Ⅲ-合弁花類」佐竹義輔・大井次三郎他 3名 平凡社 1981

「原色日本帰化植物図鑑」長田武正 保育社 1976

「日本帰化植物写真図鑑」清水矩宏他二名編著 全国農村教育協会 2001

「北海道帰化植物便覧」五十嵐博 北海道野生植物研究所 2001

「北海道植物図譜」滝田謙譲 自費出版 2001

「北海道の花」鮫島淳一郎・辻井達一・梅沢俊 北海道大学図書刊行会 1993

「花のおもしろフィールド図鑑 夏」ピッキオ編著 実業之日本社 2001

「名前といわれ 野の草花図鑑 2【夏～秋・冬】」杉村昇 偕成社 1985